

府障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

あきらめず明日も子どもと向き合おう

教師は責任を持って子どものことを心配できる仕事

子どもがもっと好きになる連続学習会

三木先生と学びつづける子どもと 授業のこと 目標・評価のこと



講師の三木裕和さん

2月11日、市障教・府障教共催の子どもがもっと好きになる連続学習会がアネックスパル法円坂で行われ、府立支援学校の多くの職場から74人が参加しました。三木先生と学びつづける子どもと、授業のこと、目標・評価のことというテーマで、鳥取大学教授の三木裕和さんが講演しました。

最初に三木さんは、軽度の知的障害のある子どもたちの「自己理解」について語りました。三木さんは知的障害のある子どもに自分の障害を理解させることは難しい課題で、例えば「あなたはできない。それを認めなさい」と子どもが「できない」との自覚を求めることになりやすいと指摘しました。その上で、実は教師自身が知的障害をどう理解しているかが問われている

参加者の感想です！ (抜粋)

高等部の担任をしているので、自立のための第一歩は先生の話をかかなくなるということだというお話がすごく意外でもしるかったです。生徒の対応について生徒のできないところばかりをあげて改善させようとするところは私にもあったので、もっと良いところや他のところに目を向けて生徒に接していきたいと思いました。

普段の教育活動の中で、子どもたちの信頼を得るための接し方を日々模索しています。そんな中、子どもたちが安心して反発できる教師「先生は自分を見捨てない」という安心感を与えることができる教師という姿は、自分が理想とする教師像に近いと感じました。

月曜から早く子どもたちに会いたくなりました。今回は先輩教師に誘われて参加しました。とても勉強になりました。今後はこのような機会がありましたら、自分からすすんで参加したいと思います。

若者のしんどさにまで目を向けてくださり、来週からもがんばる気力をいただきました。

現在教師2年目ですが、今まで自分の抱えていたモヤモヤが少し言語化できたような気がします。「ひとごとではなく、本人の立場に立って理解できること」が専門性といっていたいただき、今自分が目指しているものに対して安心感をもつことができました。

のではないかと、問題提起しました。三木さんは、様々な角度から知的障害について語り、自分自身を鍛える力「自己教育力」をより高めるためには

「自分を信頼し、期待してくれる人の存在が重要」と力を込めました。子どもたちがあの先生は安心して反発できる」「あの先生はほくを見捨てない」と信頼できる教師がそばに居ることが、いかに大切かが分かりやすく示される

三木さんは、新学習指導要領と「求められる資質・能力」論について、PISA(国際的な学力調査)の動向なども踏まえて解説されました。そして「現代日本の教育では経済発展に貢献する人材育成が求められ、教育目標は、人間を『自分たちの要求を実現するための手段』として見ている人たちが作ったのではないかと感じる」(情報部 鈴木浩司)

三木さんは、新学習指導要領と「求められる資質・能力」論について、PISA(国際的な学力調査)の動向なども踏まえて解説されました。そして「現代日本の教育では経済発展に貢献する人材育成が求められ、教育目標は、人間を『自分たちの要求を実現するための手段』として見ている人たちが作ったのではないかと感じる」(情報部 鈴木浩司)

三木さんは講演のまとめとして、「教師は責任を持って子どもと向き合おう」と述べました。この貴重な示唆は、毎日いろんな圧力を受けながら、コソコソと子どもと向き合っている多くの参加者に、勇気と希望を与えたのではないかと強く感じる」(情報部 鈴木浩司)

「自分を信頼し、期待してくれる人の存在が重要」と力を込めました。子どもたちがあの先生は安心して反発できる」「あの先生はほくを見捨てない」と信頼できる教師がそばに居ることが、いかに大切かが分かりやすく示される

三木さんは講演のまとめとして、「教師は責任を持って子どもと向き合おう」と述べました。この貴重な示唆は、毎日いろんな圧力を受けながら、コソコソと子どもと向き合っている多くの参加者に、勇気と希望を与えたのではないかと強く感じる」(情報部 鈴木浩司)

府障教ホームページアドレス <http://www1a.biglobe.ne.jp/fushou/>

Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



書記局のひとりごと

東京・築地市場の豊洲移転問題は、今や都政の大問題となり、移転を進めた石原慎太郎都知事の責任究明は避けて通れなくなりました。問題の一つは、860億円もの費用が見込まれる土壌対策です。そもそも移転先に選ばれた東京ガス工場跡地は、始めから土壌汚染がはつきりしていました。

2011年3月に、石原氏が東京ガスと結んだ協定書によると、都が当時586億円と見積もっていた土壌汚染対策費のうち、東京ガスの負担は、わずか78億円に減免されていたことが分かりました。加えて、土地の売り主である東京ガスが、譲渡後に新たな汚染が見つかった際に負うべき、瑕疵担保責任についても免除していました。つまり、都は東京ガスに汚染対策の追加負担を一切求めない約束をしていたのです。

東京が行った東京ガスへの便宜供与は、他にもあります。東京ガスは、工場跡地を市場用地として譲渡する代わりに、豊洲ふ頭の根元部分など約20ヘクタールの所有地を手に入れました。その土地は、市街地に近く、交通の便も良い一等地で、公営住宅の建設が予定されるなど、都民の貴重な財産だったところですが、もちろん、ガス工場跡地と違い、土壌汚染はほとんど確認されていません。都民の財産が、汚染された土地に変えられてしまったのです。

こうした一連の疑惑の真相究明を求める世論と運動の高まりの中、都議会はついに、百条委員会を設置することで合意しました。移転方針を強引に決めた石原氏らを証人喚問し、事実の解明が求められます。

女性部冬の学習会

自分のからだを知っていきいきと働き続けよう

1月21日、府障教女性部では大阪府職労母性保護講師団より中野千恵美さん(保健師)をお招きし、女性のからだについての学習会を行いました。昨年度女性部で実施した母性保護アンケートより、生理中に不調であるにもかかわらず、休暇を取らずに鎮痛薬を飲んで働いている女性教職員が多数いること、更年期障害に苦しんでいる方や不妊治療を続けている方が多いことが分かったからです

生命のリズムを守る

まず中野さんは、「母性保護」とは女性のからだで毎月くりかえされる生命のリズムを、過酷な労働や環境から守ることであると述べました。その中には、「直接保護」として妊娠・出産・育児に関わる保護、「間接保護」として一般女性に対する保護(残業・深夜業)

月経前後の労働の悪影響

続いて中野さんは男女のからだの違いや、月経前後の労働が女性のからだに与える悪影響(疲労が高まる、腰痛・月経困難症・不妊・膀胱炎など)について説明されました。月経中には安静が必要であることが良くわかる内容でした。

職場民主化のバロメーター

最後に中野さんは母性保護は職場民主化のバロメーターであり、生理休暇がとりやすい職場は年休もとりやすいこと、同僚への思いやりや優しさ、笑顔が自然に出る職場は、ミスがなく効率のよい職場であることを強調しました。その上で、そうした民主的な職場を守っていくのが組合活動であると訴えて、講演をまとめられました。参加者の多くが、その訴えに共感でき、若い先生方にももっと知らせ、広げていくことが大切と感じられる学習会となりました。



また、20代、30代の女性に子宮内膜症が急増していること、不妊治療を受ける夫婦は6組に1組もいることも紹介されました。その上で、人生のプランから妊娠・出産と「キャリア形成」を考える必要があることを指摘されました。

子どもと教育の未来を語ろう

全国の仲間が沖縄で交流

12月24日・25日、全教(全日本教職員組合)は、「全教『未来をひらくプロジェクト』ゆいま〜る - 見て聞いて学んでつながろう -」を沖縄県で開催し、全国から1091人が参加しました。1日目の全体会では、ドキュメンタリー映画「標的の村」監督の三上智恵さんの講演「沖縄から憲法を考える」、青年と三上さんのトークなどが行われ、参加者は憲法や沖縄について改めて考えました。

府障教からは、4人が大教組の代表団として参加し、26日までの日程で、高江のハリパッドや辺野古基地の建設に反対する運動に参加した方からお話を聞くなど、沖縄の基地問題についての学習を深めました。参加者の感想をご紹介します。

会う人会う人に、自分の体験を伝えました

最初は正直、行くのがこわいと思っていました。3日間、重くて辛い話ばかりで最後まで体がもつかなと心配だったからです。でも、実際に行ってみて、本当に重く苦しい話をたくさん聞いて、見て、感じましたが、私はしっかりと自分自身でも驚くほど話を受けとめることができました。朝から夜まで、沖縄の人たちの苦しみの記録を全身で感じました。それは、おそらく私がもう少し幼かったら受けとめきれずにいたと思います。

また、私が、子どもたちと関わる今の仕事ではなく別の仕事に就いていたら、こんなに深く心に刻まれなかっただろうなと思いました。毎日子どもたちと思いきり楽しんで、ぶつかって、喜んで、泣いて...をくり返しているから、今回の沖縄を自分なりに解釈できたのだらうと感じました。大阪に帰ってから、肩の力が抜けたのか、頭の中がパンクしていたのか少しぼんやりしていましたが、そのあとは会う人会う人に、自分の体験を伝えました。さいごにいつも「実際に行ってみてください!」と付け加えました。少しでも関心をもって、感じてくれる人が増えるといいと思います。

(枚方支援学校分会 藤谷英奈)



学習会の資料の一部をご紹介します

- 「月経を上手に乗り切るために」
- ストレスをためない
- からだを冷やさない
- バランスのよい食事を
- アロマテラピー
- 自分のからだのリズムを知る

「笑ってストレス低下を！」

- 心身両面のストレスと過労を避ける
- おもしろいことがなくても、いつも表情だけは笑顔を心がける
- 自分が好きなことに打ち込む
- 体内のキラー細胞ががん細胞を食いつぶすイメージトレーニングをする